

# くす通信

第218号  
2019年4月1日

国立病院機構熊本医療センター 発行

感染制御室の室長より

## 「麻疹と風疹」について

はしか 三日ばしか

認定看護師より

## 更に詳しく！ 「麻疹と風疹」



### 「くす(樟)」の由来について

くす(樟)は常緑の広葉樹で、熊本城内に多く見られます。種々の精油成分を含み、良い香りがします。樟脳をはじめ色々な薬用成分が抽出されるなど有用な薬用樹でもあります。  
また、くすし(薬師)とは、医師のことを指し、くすしぶみ(薬師書)は医術に関する書物のことを言います。  
本誌はこの「くす」にあやかり、健康な生活を送るために情報を提供しております。お気軽にお読み下さい。

### 風疹とは

原因は風疹ウイルスの感染です。発疹、発熱、耳の後ろのリンパ節の腫れが起こります。症状は子供では比較的軽いのですが、大人がかかると発熱や発疹の期間が子供より長く、関節痛がひどいことが多いとされています。潜伏期間は2~3週間で、感染力はインフルエンザ以上に強いです。



ワクチンを接種することで予防することができますが、昭和54年(1979年)以前に生まれた男性はワクチンを接種していないため注意が必要です。自分がかからないためだけでなく、ほかの人に移さないようにワクチン接種を受けましょう。

### 風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係 平成30(2018)年2月1日時点

男性	1回 個別接種	2回 個別接種	幼児期に個別接種(1回) 中学生の時に医療機関で個別接種(1回)	1回も接種していない 38歳10ヶ月以上の男性と 55歳10ヶ月以上の女性は接種の機会なし
女性	1回 個別接種	2回 個別接種	30歳 個別接種(1回)	中学生の時に 学校で集団接種(1回)
	1歳	20歳	30歳	40歳
	小学校入学	27歳10ヶ月 1990年4月2日生	30歳4ヶ月 1987年10月2日生	38歳10ヶ月 1979年4月2日生
				55歳10ヶ月 1962年4月2日生

風疹の怖さは、先天性風疹症候群にあります。特に妊娠初期は要注意で、妊娠11週までに感染すると、赤ちゃんの先天奇形リスクは90%と非常に高くなります。先天奇形には、難聴、心臓の病気、白内障や緑内障などの目の病気、髄膜炎などがあります。妊娠中はワクチンを受けられませんので、妊娠前にワクチンを受けておく必要があります。同時に妊娠する可能性のある女性の家族や職場の同僚など、周りの方すべてにワクチン接種が勧められます。

厚生労働省はワクチン未接種世代の男性を対象に、2019年から3年間無料でワクチン接種をおこなう方針を発表しています。それ以外のかたも各自自治体で独自の助成がありますので、HPを調べたり問い合わせをしてみてください。

認定看護師が解説!

## 更に詳しく! 「麻疹と風疹」



感染管理認定看護師  
益田洋子

### はしか(麻疹)とは

原因は麻疹ウイルスの感染です。症状は、熱と風邪症状(咳・鼻水、めやに)に加え、発疹が出ます。特徴として、発疹は、はじめからは出ません。



#### 潜伏期

10日前後です。



#### 前駆(カタル)期

38~39度の高熱、咳、鼻水、めやにが3~4日続きます。その後一度37度台に下がります。このとき、口の中の頬の粘膜に白い斑点(コプリック斑)が出ます。コプリック斑が出て初めて「はしか」と診断されます。



#### 発疹期

一度熱が下がったあとすぐに39~40度の高熱がでます。この再発熱と同時に耳の後ろや顔から発疹が現れ、2~3日で全身に広がります。

#### 回復期

はじめの熱から約10日、発疹が出てから3~4日で症状は回復に向かいます。発疹はすぐには引きません。しかし痕は残りません。こじれていなければ、熱が下がって3日経てば学校には登校できます。

現在のはしかの予防接種です。

1期 : 1歳代(1歳の誕生日から2歳の誕生日の前日まで)

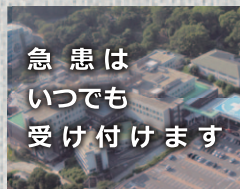
2期 : 小学校入学前の1年

今までに、予防接種を受けていない方は、早めに受けてください。子どもの頃に1回接種しただけの方は、もう一度接種して、はしかの免疫を高めておく事をお勧めします。



● 診療時間 8:30～17:00  
 ● 受付時間 8:15～11:00  
 ● 休診日 土・日曜日および祝日

〒860-0008 熊本市中央区二の丸1-5  
 TEL 096 (353) 6501 (代表)  
 FAX 096 (325) 2519  
 H P <http://www.nho-kumamoto.jp>



急患は  
いつでも  
受け付けます

診療科

- 総合医療センター 総合診療科、血液内科、腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、腎臓内科、感染症内科
- 消化器病センター 消化器内科
- 心臓血管センター 循環器内科、心臓血管外科
- 脳神経センター 脳神経外科、脳神経内科
- 感覚器センター 眼科、耳鼻いんこう科、皮膚科
- 画像診断・治療センター 放射線科、放射線治療科
- 救命救急センター 救急科
- 病理診断科 ■ 外科 ■ 頭頸部外科 ■ 呼吸器外科
- 小児外科 ■ 整形外科 ■ 形成外科 ■ 精神科
- リウマチ科 ■ 小児科 ■ 泌尿器科 ■ 産婦人科
- リハビリテーション科 ■ 麻酔科 ■ 歯科口腔外科

小 児 科

当科では感染症など小児の一般的な疾患に加えて、アレルギー、免疫疾患の診療にも力を入れています。近年増加している食物アレルギーに対しては経口食物負荷試験を行って評価し、最低限の食物除去指導を行っています。難治性の小児喘息に対しては、生物学的製剤による治療も積極的に行っています。アレルギー診療の認定看護師がスキンケア、生活指導にあたっています。

免疫疾患では免疫不全症（感染症が反復・難治化）、周期性発熱、不明熱、膠原病などの診療を行っています。

小児の救急疾患（けいれん、急性熱性疾患、事故など）についても常時受け付け、入院診療も行っています。



はしか 三日ばしか  
「麻疹と風疹」  
について

国立病院機構熊本医療センター  
感染制御室室長 / 小児科部長

みづかみ ともゆき  
水上 智之



麻疹も風疹も 20 年ほど前はありふれた子どもの病気でしたが、2008 年に予防接種回数がそれまでの 1 回から 2 回（1 歳と就学前）に増えて以降、国内の患者数は著しく減りました。しかし最近も時折流行（2016 年の関西空港での麻疹流行や 2018 年の全国的な風疹流行）があり、油断はできません。



麻疹は咳や鼻水を伴う高熱が数日間続いた後に、赤い発疹が出現する感染症です。感染力が非常に強く、子どもが感染すると時々肺炎や脳炎などの合併症を伴い、中には死亡する子どももいます。また治療のために抵抗力（免疫）が落ちている大人も同様に重症になることがあり、注意が必要です。

最近の国内における麻疹流行の多くは海外からの持ち込みで、患者の多くが高校生または大人であることが特徴です。これらの人はワクチン未接種で全く免疫がないか、ワクチン 1 回接種で免疫の不十分な場合が考えられます。麻疹に対する特效薬はなく、2 回の予防接種を確実に受けて免疫力を高めておくことが唯一の対策です。



風疹は微熱とリンパ節の腫れ（耳の後ろや、くびのしこり）、赤い発疹を呈するウィルス感染症ですが、症状が乏しく、気づかれないことも少なくありません。まれに関節炎や血小板減少症（出血が止まりにくい）、脳炎を起こします。注意すべきは、妊婦が妊娠初期に風疹に感染し、胎児が身体に異常（白内障、難聴、先天性心臓病）をきたす「先天性風疹症候群」です。妊婦が自分も気づかぬうちに風疹にかかっている、先天性風疹症候群の児が生まれた事例も報告されています。



風疹も麻疹同様にワクチンが唯一の予防手段ですが、妊娠中は予防接種を受けられません。妊娠前に 2 回

予防接種が済んでいることを確認し、回数不足している場合は予防接種を受ける必要があります。また妊娠可能な女性の同居者で、風疹に対する抗体がない方にも予防接種が勧められます。2018 年も、予防接種の機会がなかった多くの 30～50 歳代の男性が風疹に感染しています。



20 年 前には子ども  
の病気であった麻疹と風疹は、今やこれらのウィルスに抗体を持たない大人の病気に変わってきました。われわれ大人、そして大事な子どもたちをこれらの感染症から守るために、多くの人が予防接種を受け免疫を得ることが望まれます。

